

# 日本医学会だより

JAMS News

2007年 5月 No. 37  
日本医学会

## ◆日本医学会医学用語辞典 英和 第3版改訂

改訂第3版は、日本医学会の事業として医学用語管理委員会により編纂されたわが国の標準ともいべき医学用語集である。第3版はとくにMeSH (Medical Subject Headings), UMLS (Unified Medical Language System) にも照らし世界水準の用語の適合を目指した。また日本医学会分科会の協力を得て各分科会の選定用語を広く採用し、整理・統合した集大成であり、かつ最新の医学用語を採り入れた。また改訂第3版で新しく取り入れたことの1つに推奨語の決定がある。従来から同じ医学英語でも分科会によって翻訳の日本語が異なっていたため、従来の版では複数の日本語訳をつけていた。しかし改訂第3版では英語に対応する日本語が複数ある場合には、優先的に使用すべき日本語を推奨語と決定し、医師国家試験の出題などに際して、受験者が混乱しないような努力を払った。本辞典が医学界で広く利用され、教育、研究、医療などの実際に役立つことが期待される。

## ◆第4回日本医学会公開フォーラム

「医学・医療の今—がんに挑む—肺がん」をテーマに、2007年6月9日(土 13:00~16:00)、日本医師会大講堂において開催(組織委員長:垣添忠生国立がんセンター名誉総長)する。市民を対象にした第4回公開フォーラムであり、参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ (<http://www.med.or.jp/jams/>) のいずれかの方法で申し込まれたい。参加費無料。

プログラムは、下記のとおり。終了後、ホームページにて映像配信する。

1. 禁煙の重要性/中村正和 (大阪府立健康科学センター 健康生活推進部長)
2. 診断の進歩と問題点/金子昌弘 (国立がんセンター中央病院 内視鏡部医長)
3. 手術療法の進歩/岡田守人 (広島大学原爆放射線医科学研究所 腫瘍外科)
4. 肺がんの薬物療法/岡本 勇 (近畿大学医学部 腫瘍内科)
5. 患者の立場から—肺がんと私/曾我ひとみ

## ◆第132回日本医学会シンポジウム

「わが国の臓器移植—現状と問題点」をテーマに、2007年8月2日(木 13:00~17:00)、日本医師会大講堂において開催。組織委員は、大島伸一、寺岡 慧、門田守人の各氏。参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ (<http://www.med.or.jp/jams/>) のいずれかの方法で申し込まれたい。参加費無料。プログラムは、下記のとおり。終了後、ホームページにて映像配信する。

序論/大島伸一 (国立長寿医療センター)

1. 各種臓器の移植の現状/寺岡 慧 (東京女子医大・外科学)
2. 移植待機患者の現状/福寫教偉 (大阪大・移植医療部)
3. 脳死臓器提供の現状と問題点/有賀 徹 (昭和大・救急医学)
4. 生体移植の現状と問題点—生体肝移植ドナー予後調査をふまえて—/里見 進 (東北

大学・外科学)

5. 渡航移植の現状と問題点/小林英司(自治医大・臓器置換研究部)
6. 臓器移植法案改正の動向/河野太郎(衆議院議員)

## ◆医学賞・医学研究助成費

平成19年度日本医師会医学賞・医学研究助成費の推薦依頼を日本医師会雑誌の5月号に公示。要項概略は以下のとおり。詳細は本会に問い合わせ下さい。推薦期間は、5月15日～7月5日。

医学賞：1. 日本医師会会員で、医学上重要な業績をあげた研究者を対象とする。2. 基礎医学・社会医学・臨床医学を通じ計3名に授与する(副賞は1名500万円)。3. 推薦は、日本医学会分科会長、大学院医学系研究科長または医学部長・医科大学長、大学附属病院長(本院)、関係機関長、都道府県医師会長により各部門1名以内。

医学研究助成費：1. 日本医師会会員が行う医学上将来性に富む研究を対象とする。2. 基礎医学・社会医学・臨床医学を通じ15件に授与する(1件150万円)。3. 推薦は、日本医学会分科会長、大学院医学系研究科長または医学部長・医科大学長、大学附属病院長(本院)、関係機関長、都道府県医師会長により各部門1名以内。

## ◆日本医学会への加盟申請

平成19年度の日本医学会への新規加盟申請は、5月15日に公示(日本医師会雑誌等)し、7月31日に締め切る。申請書は、日本医学会ホームページからダウンロードできる。

## ◆第74回日本医学会定例評議員会

平成19年2月21日開催の評議員会において、高久会長から「就任して2期の半ばになるが、日本医学会あり方委員会でいろいろ検討してきた。その検討の一部には部会の構成の件がある。またそれ以外には、医療界全体の多くの

方が働く大学病院、あるいは病院の医療が非常に危機的な状況にある。病院勤務医が非常に厳しい状況に置かれている。裁判の問題もあり、異状死の取り扱い、さまざまな問題がある。日本医学会としてもその問題に関しても積極的に取り組む必要があるということで議論された。

なお従来、日本医師会から援助されていた各学会の20万円については、むしろ各学会ではなくて日本医学会のほうに一括して、日本医学会の活動、特に社会に対する発言のために必要な委員会等の仕事に活用したい趣旨を唐澤日本医師会長にお話し、了承を得た。各学会にも連絡の上、ご了承いただいたと理解している。

今後、医学会として行わなければならない事柄が山積していると思うが、随時各学会のほうからサジェスチョンをいただければ、日本医学会としてできるだけ努力をしたいと考えている」と挨拶した。

また今年度の本会への新規加盟は、日本乳癌学会が加盟した。

## ◆第27回日本医学会総会

大阪にて、第27回日本医学会総会(平成19年4月6日～8日)が開催された。

開会式、閉会式は、大阪の特性を生かした素晴らしい式典であった。今総会は、講演の数をしほり、幅広く違った分野を知るという観点から、シンポジウムとパネルで構成された。特別講演には、日本の経済学の第一人者と言われる宇沢弘文氏、そして大阪が生んだ世界的な建築家・安藤忠雄氏、医師で宇宙飛行士の向井千秋氏の講演があった。特に、学術講演のなかでは、今一番大きな問題ともなっている「今日の医学教育、医療制度の問題点とその改革」について、さまざまな分野の方からの意見交換があった。この講演の意義は、これから先の問題を提起することにあつた。また医学生と研修病院とのマッチングの催しを、京セラドーム、大阪球場で行った。また、一般公開の展示、EXPO 2007にも多数の参加者があつた。盛会裏に終了した。